

2023年度 放送番組審議会 議事録
(株式会社ジェイコム九州 熊本局)

日時：2024年3月22日(金) 16:00~17:30

場所：株式会社ジェイコム九州 熊本局 会議室

出席者：

- (会長) 宮園 博光 …… 熊本県立大学総合管理学部 教授
(副会長) 羽野 晋之介 …… 株式会社くまもとDMC 常務取締役
(委員) 岡村 洸斗 …… 株式会社熊本マーケティング研究所 代表取締役
(委員) 坂井 木綿子 …… 株式会社地域情報センター(くまもと経済) マネージャー
(委員) 村上 和美 …… 熊本市経済観光局 局長

(以上 5 名、敬称略、会長・副会長以下順不同)

事務局：

| | | |
|----------------------------------|-----------------|-------|
| 株式会社ジェイコム九州 | 代表取締役社長 | 上村 忠 |
| | 取締役 | 高口 義幸 |
| | 地域コミュニケーション統括部長 | 上妻 栄太 |
| | 熊本局地域プロデューサー | 濱 孝太郎 |
| JCOM 株式会社 映像制作第一部 九州リージョナルマネージャー | | 篠原 有 |
| | 熊本チーム拠点長 | 橋本 和信 |

1. 開会の挨拶(株式会社ジェイコム九州代表取締役社長 上村 忠)

年度末の大変お忙しい中、本日はありがとうございます。

2024年は年明けから能登半島地震や飛行機事故など慌ただしく始まりました。

地震で思い出すのは、熊本地震の際、ホワイトボードに避難所情報を書いて掲出し緊急放送を行っていたことです。地域メディアとしての役割を考える出来事でした。短い時間ではあるが、弊社のチャンネルについて忌憚ないご意見を賜りますようよろしくお願いします。

来年度の放送制作に活かしていきたいと思っております。

2. 番組審議会 審議委員紹介

(委員)

本日は委員 5 名全員が出席。

放送番組審議会規程第 4 条に基づき、2 分の 1 以上の委員の出席。

当会は成立しました。

3. 会長、副会長の選任

(委員)

審議会規程第 3 条 3 項に基づき会長、副会長を新たに選任したい。

(委員)

会長に宮園委員、副会長に羽野委員を推薦したい。

(委員一同)

異議なし。

(宮園会長)

他薦のうえ異議なしということで、会長に宮園、副会長に羽野委員を選任します。

また、今年度における自主番組放送基準等の変更はなしとします。

4. 議題 1 J:COM チャンネル熊本 2023 年度自主制作番組について

(1) 前回の審議を受けた改善点報告

(2) 2023 年制作方針説明

(3) レギュラー番組 紹介

(4) 特別番組 紹介

5. 意見交換 (レギュラー番組・特別番組について)

(事務局)

新番組「ぎ QCLASS」では行政の方が行っている活動をより多くの市民に知ってもらいたいと番組を始めました。また、地域スポーツについては、番組取材だけでなく、J:COM も大会の運営に参加し、地域とみなさんと一緒に作っていくことも考えている。

(委員)

行政の取材をしてもらっているのがありがたい。
様々な取り組みを見てもらうのが重要と思っている。
質問) 番組の視聴率は出しているのか。

(事務局)

いわゆるビデオリサーチ社のような視聴率は出すことができない。
J:COM 対応済みの建物にお住まいの方であれば未加入者も視聴できる無料チャンネルだが視聴データを収集できるのは加入者の一部だけであり、正しい分析を行うのは難しい現状がある。

(委員)

「視聴率ってなんだろう？」という議論もあるが、ケーブルテレビは視聴率とはまた違うところにあるのではないかと思う。

(委員)

質問) ホテルの TV は最初に電源入れると案内があるが、そのような仕組みが J:COM でもあるとよいのかなと思った。

(事務局)

技術的には可能だが、費用面で難しい部分もある。

(事務局)

コミュニティチャンネルに出演すること SNS などで反響があり、それを見た人が番組を視聴するという循環を作っていきたい。
現在は YouTube で配信している番組もある。

(委員)

コミュニティチャンネルは身近な話題を見られることが良い武器だと思った。
民放は数分程度しか扱わないネタでも J:COM では、情報発信者が出演し詳細に情報を伝えることができ、良いと感じた。

(委員)

この前私が参加したイベント取材にきてもらった。
その際、参加者で「どうやったら視聴できるのか？」という話になった。
コミュニティチャンネルは「見るテレビから出るテレビ」なんだなあと感じた。

出演者を増やすことが視聴者を増やすことに繋がるのではないかと思った。
目標値として「番組出演者を何人」など通年で数字化し、その実績を発信していけば視聴者増につながるのではと思った。

(委員)

ここまで地域の情報を発信しているチャンネルはなかなかないと感じた。
行政の人が何をしているのか発信する番組はぜひ継続してほしい。
また、観光目線で行くと、ターゲットのひとつが福岡になっている。
制作部署は九州内を管轄しているとのことなので、「熊本の情報を福岡で流し、熊本に観光客を呼び込む」といった情報の出し方もご検討いただければと思う。

(事務局)

もうひとつのコミュニティチャンネルである J:COMテレビ (11ch) は、全国を対象エリアとしており、熊本の情報を全国に発信することも可能。

(事務局)

テレビ以外の情報の出し方に関しては専用アプリ「ど・ろーかる」や YouTube などの SNS も活用していきたい。

6. 議題 2 自主制作番組審議番組 「ジモトトピックス～熊本～」

(委員)

丁寧に取材している。
近津(火の神まつり)や琴平神社のお祭りなど伝統文化は、非常に魅力的だと思った。
YouTube に UP すればインバウンドにもつながるなど感じた。

(委員)

本物の日本を知りたいという海外の観光客の方も増えている。
また、海外の方への災害に関する情報は大事だと感じている。引き続き地域に特化した災害放送を続けていただきたい。

(事務局)

各自治体と防災協定を結び、災害時の情報発信に取り組んでおり、河川カメラの映像を放送するシステムも構築している。

(委員)

番組内容は、多種類のオムニバスよりも何か一つにカテゴリ化したほうが視聴数は上がるのではないかと思う。

「ここにいけば〇〇の情報が分かる」とか、「ここを見れば〇〇が分かる」的な番組にするといいのではと思った。

例えば「ジモトトピックスランチバージョン」など

出演するお店が多くなれば一つのステータスになり、ジモトピのメディアの価値も上がるのではと思った。

(事務局)

コロナ禍を経て、ようやく通常取材が可能となった。

番組当初は手探りの状態で、どのような情報を取材対象にするかから始めた。

地域の色々なジャンルの情報を取材していきたい。

(事務局)

ジモトトピックスは週更新の番組のため、どうしても情報の鮮度に問題がある。

その点を留意してほしい。

(委員)

取材現場の人が一番の宣伝マンだと思う。

「J:COM が来ている！」と分かるくらい取材スタッフもアピールして撮影に臨んでいただきたい。

(委員)

地域スポーツも取り上げてもらった際、その大会に自分の家族や子供が出ていると

「いつ見られるのか？」と問い合わせを受ける。

スポーツの力は強いと思うので地域のスポーツをもっと取り扱っていいと思う。

7. 閉会の挨拶

(JCOM 株式会社 映像制作第一部 九州リージョナルマネージャー 篠原 有)

多方面に渡るご意見をいただき、ありがとうございました。

海外を意識した番組制作は今までできておらず、新たな気づきをいただく良い機会となりました。これからも、少しずつ進歩していき、地域の皆様から愛されるチャンネルを目指してまいります。

以上